新県町議とともに語る古村たかし
活動報告会。
4月10日の県庁訪問報告を含む。

★丹那ベルト区域＜仮称＞構想

田代、軽井沢、丹那、畑、ダイヤランド、エメラルド、小松ヶ原、富士見ニュータウンまでベルト状に広がる13000区画に上る田園住宅別荘地の活性化を図ります。

前函南町町議会議員　古村たかし
函南町丹那1312－217　南箱根ダイヤランド・ワンズヒル93－28
090-8621-9389 ...SMSでも連絡下さい。

2023年5月28日（日）14：00～
於南箱根ダイヤランド ダイヤホール

HomePage https://furumura.net

R5年3月定例会　一般質問 http://bit.ly/3Jk5Sir

★丹那ベルト区域（田代,軽井沢,丹那,畑,ダイヤランド,エメラルドタウン,小松ケ原別荘地,富士見ニュータウン）

★丹那ベルト区域は13000区画もの50年の歴史を誇る既存大田園・住宅・別荘地である。
全区域に各3人の住宅があれば人口4万人の新区域となる（丹那小学校地区、特認校の活用）

★首都圏に最も近い、交通至便（新東名、東名、新幹線）な日本最大のエリアである
首都圏からの移住、熱海地区からの移住の積極推進、丹那盆地周回路への自動運転誘致

★伊豆湘南道路の接続点はファミマ　Aに加え、オラッチェB を検討

★熱函道路への接続点（新山IC、セントラル入口）及び縦断市道、町道の抜本的改善を検討

★Cには中核となる東の道の駅（防災拠点、病院、集会所、公園etc.）を検討

★高齢化率改善のための国のチャイルドケア（婚活、若者支援、保育～大学までの完全無償）を推進

★目的・agenda

1. 軽井沢メガ建設阻止に関する最新情報
2. 無医地区における出張診療所計画
3. エメラルド区水道問題および
   東部簡易水道に代わる新水道源の考察
4. 伊豆湘南道路の丹那出入り口を計画
   縦断町道市道改善,熱函道路接続改善
5. 首都圏、熱海地区からの移住の積極推進
   裾野ウーブンシティとの連携:13000
   区画4万人規模の田園住宅別荘地
6. 丹那盆地周回路へのGSM自動運転計画
7. 今後の活動。。。

1. 軽井沢メガ建設阻止に関する最新情報

・林地開発許可取り消しの最新状況

昨年7月以降の県議による現地状況確認（守る会の要請）

12月の林地開発許可取消請願を県議全員で可決

→　しかし県知事は取消を表明しない。

ダイヤランドHP情報　→　https://dialand.jp/archives/15584

裏には県の否定的な考えがあるか？

4月10日の県の担当部門との打合せ P x 参照。

→　6月の静岡県議会を注目

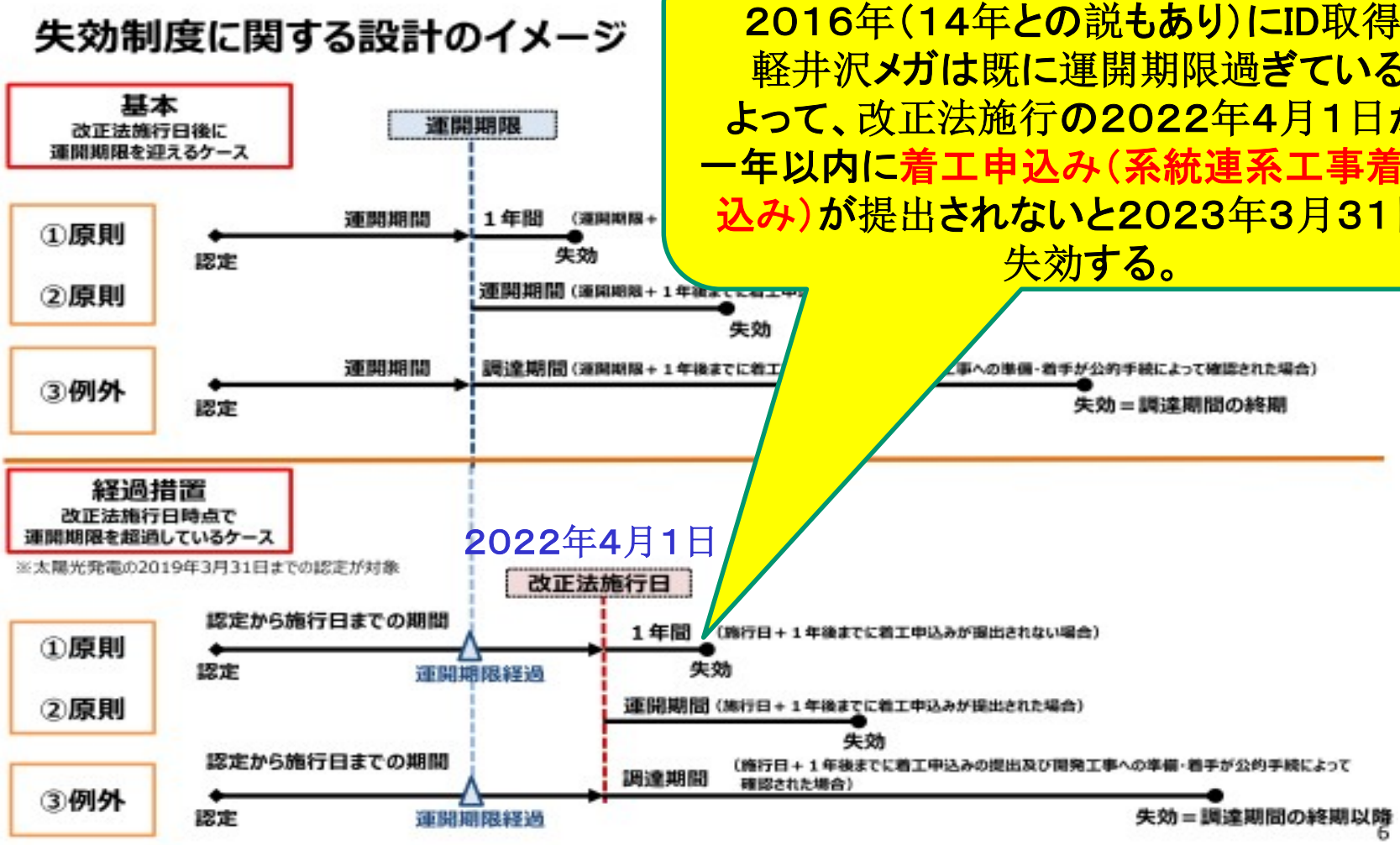
・2022年4月の10年振りに改訂された FIT法→FIP法の認定済ID失効制度に関して

https://www.fit-portal.go.jp/searchinvalidplantid

軽井沢メガのID=AD36038C22を確認する

R4年／8／23特別委員会説明資料の確認
再生可能エネルギー室長潮崎さんの説明

これに該当。
2016年（14年との説もあり）にID取得の軽井沢メガは既に運開期限過ぎている。
よって、改正法施行の2022年4月1日から一年以内に**着工申込み（系統連系工事着工申込み）**が提出されないと2023年3月31日に失効する。



2. 無医地区における出張診療所計画

・2022年伊豆保健医療センターさんによる
年間1000件の積極的な訪問診療の実績有。
→　訪問診療のみならず、出張診療を要望。
→　小松ヶ原区さんの出張診療は？
→　丹那の農村環境改善センターでの
山口先生の出張診療に加えて
伊豆保健医療センターさんの出張診療を期待。
医師のみならず、事務方/看護師の充足がキー
→　医師会、市町の支援が必須。
★　暮らしの応援隊の移動支援でも
病院への送迎の比率が高い。

（10/29の健康フォーラムの記事）

（1）　第14079号　（昭和58年3月22日第3種郵便物認可）　伊豆

在宅医療「住民主体で」

医師講演、パネル討論も

伊豆保健センター

伊豆の国市の伊豆保健医療センターは29日、同市のアクシスかつらぎで伊豆健康フォーラム（伊豆日日新聞など後援）を開いた。基調講演とパネルディスカッションを通じて、住み慣れた家で安心して療養するための「みんなで支える在宅医療、地域医療」について考えた。

同センター地域ケア部長の北沢彰浩医師が基調講演した。医療について「これまで言われてきたように医術で病気を直すことではなく、その人らしく生きてもらうために寄り添い支えること。子を親が、親が子を支えるように、みんなが担い手になることで住民主体の医療が実現する」と持論を述べた。

パネルディスカッションでは、在宅医療に関わる医師や訪問看護師、ケアマネジャー、地域包括支援センター相談員、在宅医療を受けた患者の家族が意見を交わした。

末期がんの夫を自宅でみとった同市の牧野弥生さんは「病院から家に戻り、子どもや孫に会えて夫は本当に喜んだ。願い通り、家族に見守られて静かに息を引き取った。支えてくれた皆さんに心から感謝している」と振り返った。同センター総合診療科長の清水啓介医師は「在宅医療に携わり、家の持つ力や家族の絆の素晴らしさを知った。そこに地域全体で支える仕組みを加えていくことが大切だと思う」と述べた。

閉会のあいさつで田方医師会の土屋和彦会長は「高齢化率が高いこの地域では在宅医療のニーズが高まっている。希望する人生を全うするため、関係機関に遠慮なく相談してほしい」と呼び掛けた。

健康フォーラムで在宅医療に関する会場からの質問に耳を傾けるパネリスト＝伊豆の国市のアクシスかつらぎ

伊豆保健医療センターさんの積極的な在宅医療、地域医療の記事

清水先生

特集：伊豆の国市　＋追っかける

在宅医療拡充へ地域ケア部新設　伊豆の国市・保健医療センター　「未来プロジェクト室」も

2022.2.12

大仁支局　小沢佑太郎

伊豆の国市の伊豆保健医療センターが４月から組織を改編して地域ケア部を新設し、本年度から注力している在宅医療の取り組みをさらに拡充する。外来の総合診療科や病院の価値向上を目指す未来プロジェクト室も新たに立ち上げ、地域に根差した病院の実現に向けた取り組みを加速させる。

在宅医療の分野で先進的な佐久総合病院（長野県）に２７年間勤め、副院長や診療部長などを歴任した北沢彰浩医師（５６）が１月に赴任した。地域ケア部の部長を務め、訪問診療や往診を行う部署を統括する。北沢医師は「『第二の佐久』を目指すのではなく、地域に合った住みやすい場所づくりを住民と一緒に考えたい」と抱負を語った。

国の新専門医制度で創設された総合診療科は身体疾患を総合的に診療するだけでなく、心理や社会的背景を考慮した医療を提供し、地域と連携した健康的なまちづくりを目指す。同センターでは、在宅医療の取り組みで中心的な役割を担う清水啓介医師（２９）が専門医の資格を持つ。
(佐久病院から)

ほかの組織改編では、訪問看護ステーションひまわりを看護部内に組み入れる。地域ケア部内に新設する地域支援科は講演や院外事業への参加など同センターと地域をつなぐ窓口の役割を担う。

■未来プロジェクト室　看護師など採用強化

→清水さんが室長となる。

伊豆保健医療センターが４月の組織改編で新設する未来プロジェクト室は、病院の価値向上を図って看護師などの採用強化に取り組む。病院長直下の部署で、職場環境の改善や地域との協働など部門横断的な活動を推進する。

伊豆保健医療センター、地域ケア部/未来プロジェクト室の積極的な地域医療、総合診療、在宅医療、訪問診療に関する記事です。

ダイヤランドの皆さんへ

2019/7/27作成 9／19改訂
区民の会　広報担当　古村　高
090-8621-9389

山口医院殿による丹那小学校地区出張診療のご案内

●ダイヤランド近隣で診療して下さるお医者様を探しておりましたが函南町健康づくり課および函南町大竹の山口医院のご厚意、ご了解を受け、この度ダイヤランドの皆さんも同医院の丹那地区出張診療に参加することができるようになりましたのでご連絡します。

日時：毎週火曜日午後2時から3時
場所：丹那改善センター健康相談室（東側入口より入る）
診療科目：山口医院（函南町大竹）による内科/外科/脳外科

事前準備：前日までにFAXにて山口医院に健康保険証及び(あれば)お薬手帳のコピーをFAX送信し、ｘ月ｘ日に受診したい旨連絡下さい。
お名前、電話番号も記載下さい。
★これは診察券およびカルテを事前に作成するための準備となります。
FAX：　055－978－2177，TEL：055－978－2011

同出張診療所のメリット：
函南町中心部の病院まで行く手段の少ない患者さんがダイヤランド至近の丹那の改善センター（町の施設）で診療を受ける事が出来、また投薬も函南ベリー薬局殿により診療の後で皆さまの御自宅まで配送されます。
お薬の費用は現金でお支払い頂きます。
配送費用は無料です。

診療準備中の山口先生

その他：
診療を希望される方は,できましたら古村にもご連絡お願いします。
また都合がつけば診療に同行しお連れすることも可能です。
この出張診療は時間も限られておりますので、ご自身で町中まで行ける方は大竹の山口医院での診療をお願いされることがあります。

オラッチェ近くの丹那農村改善センター

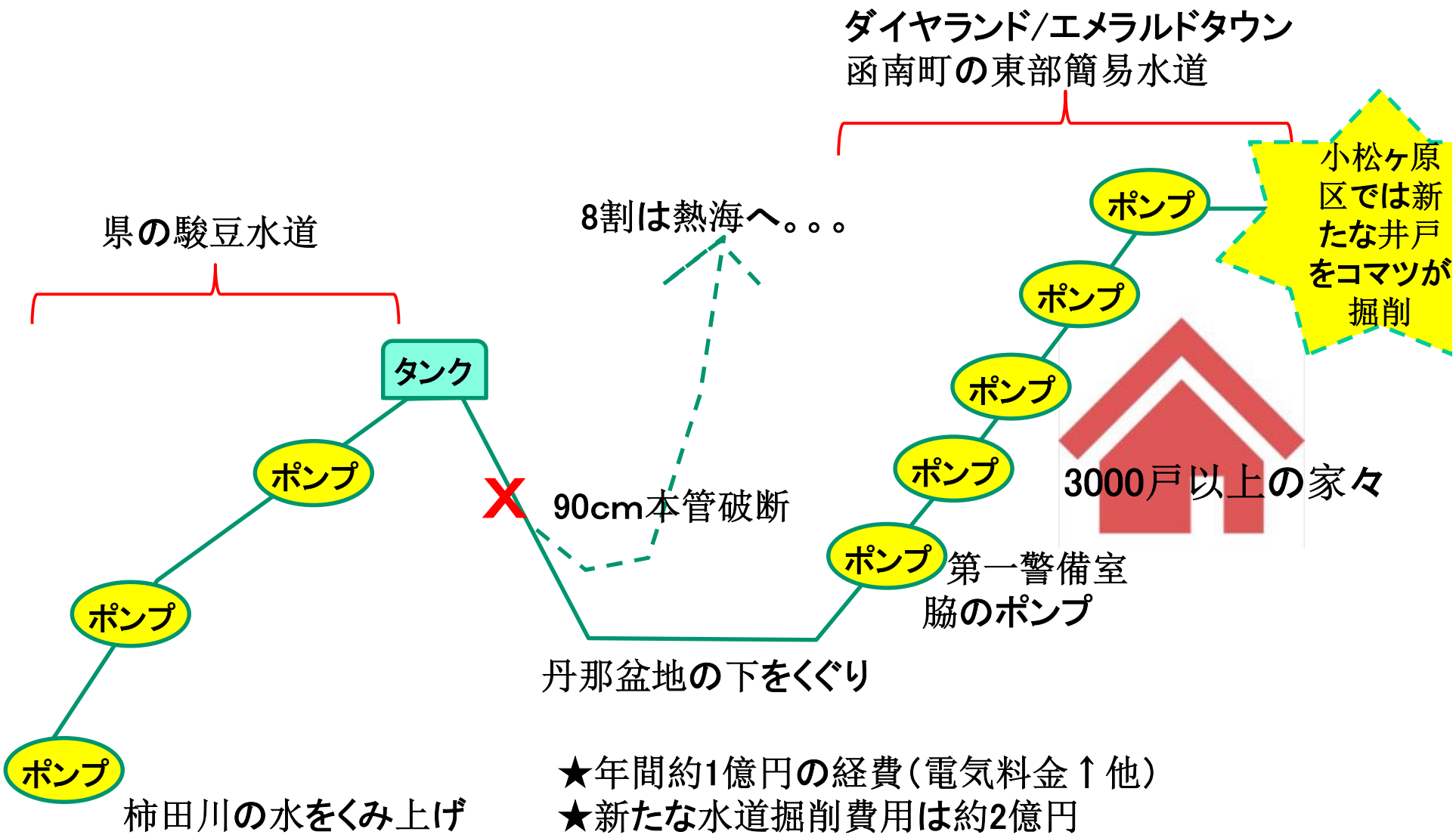
献身的な山口先生の丹那出張診療@農村環境改善センター

3．エメラルド区水道問題および東部簡易水道に代わる新水道源の考察

・過去50年近く、函南町の簡易水道として正式に認可されていない現状。

・同じエメラルドタウンのみどり区（伊豆の国市側）は令和7年から伊豆の国市の簡易水道として、現状の約2．5倍（ダイヤランドの1．25倍）の水道費用となる予定。県もＲ５年2月に認可済。

・水道源の駿豆水道を使う函南町東部簡易水道は年間1億円の経費のかかる50年前の古い水道源→小松ヶ原やみどり区と同様の新水道源の検討が必要では？



★年間約1億円の経費（電気料金↑他）
★新たな水道掘削費用は約2億円
★小松ヶ原区の新水源は伊豆の国市へ寄付された
　2本→小松ヶ原区で使用中
　1本→エメラルドタウンみどり区でR7年より使用予定
　　（伊豆の国市の新たな簡易水道として）

4. 伊豆湘南道路の丹那出入り口を計画
縦断町道市道改善,熱函道路接続改善

・伊豆半島の防災、減災の目的で伊豆湘南道路の早期完成を目指す。（第3東名の位置づけ）
・熱海市長、函南町長をヘッドとする同道路推進期成同盟会により早期完成を目指す。3年前に国交省の調査費がつき、県による計画促進。4／10に県の道路局とも打合せ実施。p.24参照。
・丹那の出入り口の計画による町道市道の整備促進、熱函道路の接続改善。東の道の駅構想への後押し。
・国交省（斎藤大臣）への直接申し入れ可能。

x 丹那出入り口がなければ、丹那盆地は素通りで丹那ベルト区域への経済効果を期待できない。。。。

5. 首都圏熱海地区からの移住の積極推進
裾野ウーブンシティとの連携:13000区画4万人規模の田園住宅別荘地

- 丹那ベルト区域の拡大丹那ベルト区域構想（国交省沼津土木河川事務所長アドバイス）で、裾野ウーブンシティ（2000戸しかない）の外郭ベッドタウン（13000区画）を目指す。インフラは整備済み。
- チャイルドケア、少子化対策必須。安保防衛費用より優先すべき。（ｂｙエドワードルトワック）
- 少子化対策費用倍増ではNG,10倍増の少子化対策費用必須。丹那の特認校をバックアップ。保小中高大学費無料,給食費無料,医療費無料,婚活＋住居提供。
- ハロウインターナショナルスクール構想推進

○北は裾野深良用水、南は江間イチゴ街道までの拡大丹那ベルト区域の中核とする。

○裾野ウーブンシティとの連携。

エドワードルトワックさんのチャイルドケアに関する日本の無策指摘。最も優先されるべきは無償のチャイルドケアである。

安全保障と少子問題

多くの読者は、北朝鮮や尖閣への危機対応という安全保障上の問題と、少子問題が並べて論じられることに違和感を覚えるかもしれない。

しかし、これらの問題には二つの点で通底するものがある。

ひとつは、いずれも日本がまさに直面している、致命的な問題でありながら、実際的かつ有効な対処法に誰も取り組もうとしていない点だ。そこに共通するのは、リアリズムの欠如である。

日本は長年、少子化問題を議論しながら、人口減少という国家にとって真の危機を間近にしても、思い切った施策を打ち出そうとしていない。そもそも将来の納税者が減少すれば、近代国家は衰退するしかないのだ。

もうひとつ、子どもがいなければ、安全保障の論議など何の意味もないということだ。人間の人生には限りがあり、未来は子どもの中にしかない。当然、国家の未来も子どもの中にしかなく、それを守るために安全保障が必要なのである。どんなに高度な防衛システムを完成させても、国内の子どもが減り続けている国が戦争に勝てるのだろうか？　未来の繁栄が約束されるのだろうか？

今回、日本に来る際、私が乗った飛行機の席の近くに、赤ちゃん連れの母親がいた。この赤ちゃんが泣き始めたので、私は席を立って、彼らのそばに行った。その母親は、不満を言いにきたと思ったのか緊張したようだったが、「私にも孫がいる。赤ちゃんは私にまかせて、トイレにでも行って、リラックスなさい」と声をかけると、安堵の表情を浮かべた。ところが、私の隣に座っていた男は不満げに「俺はわざわざビジネスクラスのチケットを買ったのに、赤ん坊がうるさくてたまらん」と言うではないか。私はその男に言ってやった。「お前は馬鹿だ。赤ん坊のそばにいたくないという奴は、人生のセンスが全くない人間だけだ」と。

もし日本が本当に戦略的な施策を打ち出すのであれば、最も優先されるべきは、無償のチャイルドケアだろう。スウェーデン、フランス、イスラエルは、高い水準のチャイルドケアシステムを整備し、実際に子どもが増えている。

「日本4・0」が最初に取り組むべきは、日本人が得意とする包括的なチャイルドケアシステムの構築だ。

まずは不妊治療の無料化。イスラエルはこれを一〇〇%実施している。

次は出産前の妊婦が必要とする諸費用、出産費用、さらには小学校に行くまでのチャイルドケアの費用を国が負担することである。

イスラエルでは、大卒の女性が生む子どもの数は平均で二・五人に達している。もちろん彼女たちは国からの援助を必要としていないが、いざとなったら無料のシステムに頼れるというセーフティネットが備わっているのだ。

これは国内の心理的な空気も一変させる。高齢化が行き着くと、国内の雰囲気は保守化し、悲観的になる。未来のことを考えない近視眼的な思考がはびこるようになるのだ。

私は日本の右派の人々に問いたい。あなたが真の愛国者かどうかは、チャイルドケアを支持するかどうかでわかる。民族主義者は国旗を大事にするが、愛国者は国にとって最も大事なのが子どもたちであることを知っているのだ。

6. 丹那盆地周回路へのGSM自動運転計画

・2021年実施のGSMは自動運転ではなかった。
https://dialand.jp/archives/13150
・高価なGPS方式ではなく、50年の歴史のある誘導線方式、ゴルフカート方式の自動運転GSM設置
★公道で「完全自動運転」スタート　国内初、常時監視なしで走行（朝日新聞デジタル）
https://news.yahoo.co.jp/articles/b45fbb8bd31fe8f838233335dda6fa60e572f5402
・ヤマハとZoom会議予定。函南町と第3セクターからめて丹那盆地とダイヤランド管理センターまでの自動運転GSMを計画。

7. 今後の活動。。。

・東の道の駅計画推進。p.2のC点参照
防災拠点、避難所、通信拠点、
自然エネルギー利活用研究拠点、
病院/診療所、いこいの場、サロン,集会所、
体育館、温水プール、子供の公園、
GSM自動運転基地、地域公共交通HUB、
有機農法野菜の販売等々。。。

・函南自然農法の会との連携
Sunファームでの活動

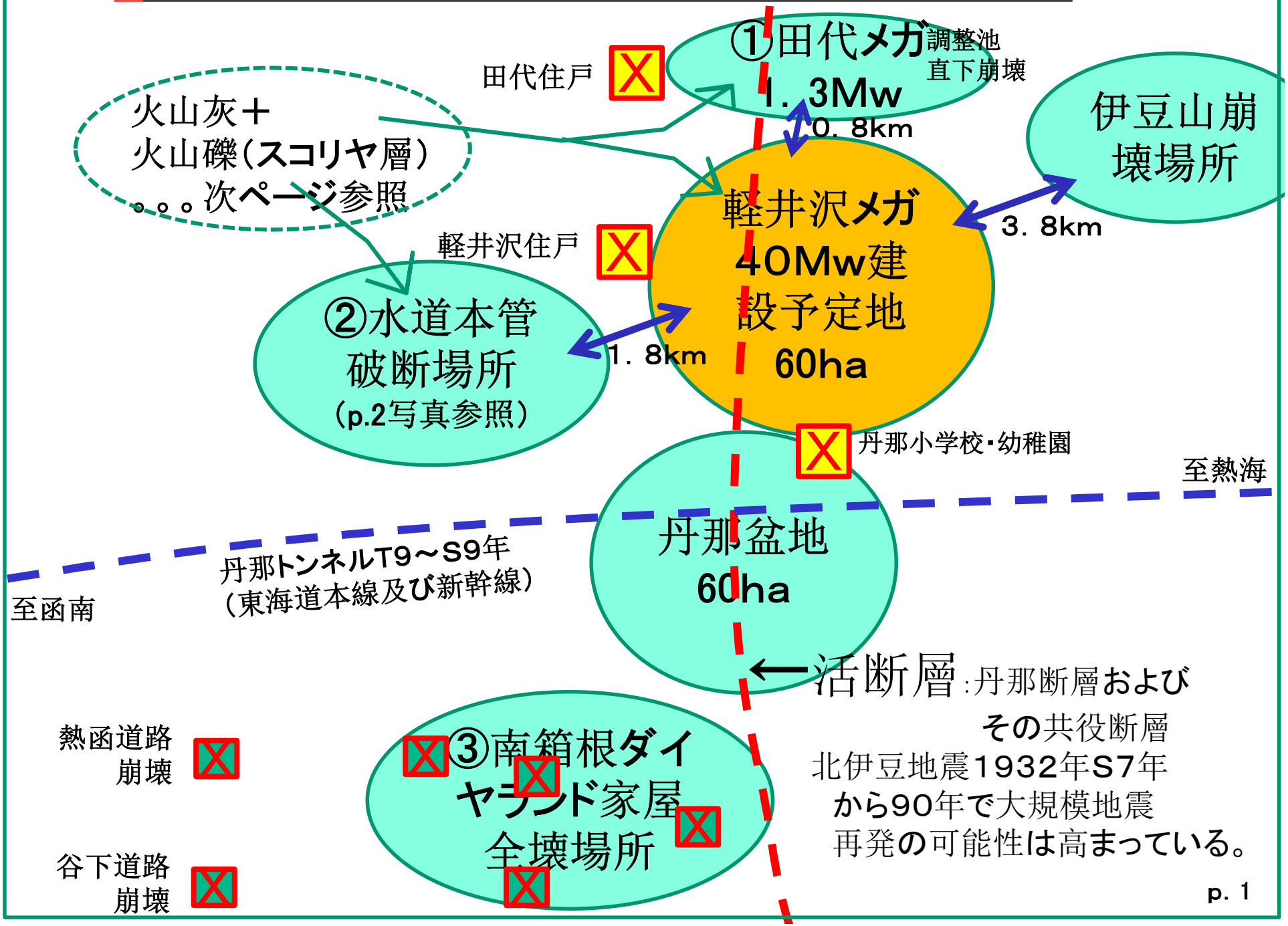
・函南町都市交流協会での活動

次ページ以降は4月10日の県庁での打合せ議事メモです。

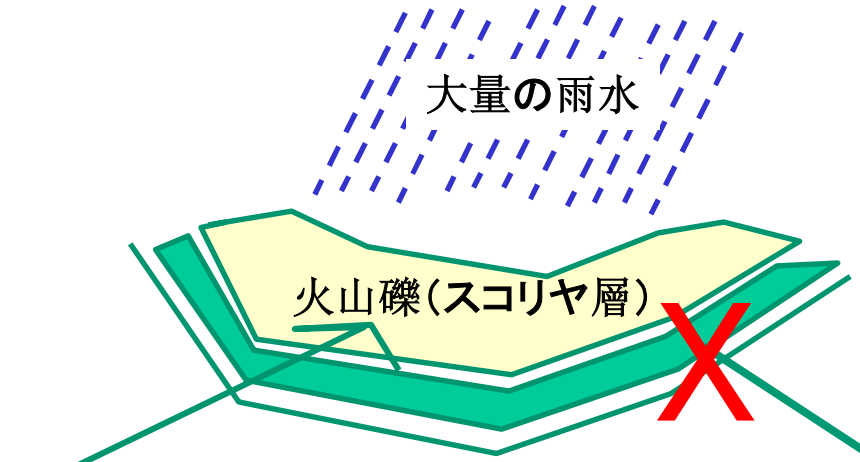
1. 経済産業部 森林保全課・エネルギー政策課
（軽井沢メガソーラー林発許可取消関係）

参加者：森林保全課 課長 大川井さん,課長代理 大野さん,森林保全班班長 阿曽さん,エネルギー政策課課長 横井さん(名刺無し),班長 松原さん
打合日時場所：230410、13:00~@東館13F 外部大型モニタ借用
打合内容：
-1.昨年6月から県議会で議論、現地調査、12月議会で林発許可取消の請願もあり3人の県議が質問、本年2月議会で中田県議質問、審査継続中の説明あり。（中田県議とは4／10朝9時に事前架電し、森林保全課に再度情報提供するようにアドバイスあり。）
-2.町、町議会も林発取消要望書を直接県に提出したことの確認。また東電に対しても系統連系工事着手届けが出た場合でも慎重に対応するように町が要請したこと（3／10付け新聞記事）の確認
-3.2019年台風19号被害のフォト情報をｐｃ持参し外部モニタに表示し説明。https://photos.app.goo.gl/ooSrSJ4iicVxjcMf7　自民改革派は現地で見てない田代のメガ被害状況も説明。2022年1月に県生活環境課で町議会特別委員が説明した資料を手渡し説明。→ 次ページ参照。
-4.認定ID失効制度で軽井沢メガＩＤ取消になるかの議論。横井さんは、取消にならないのではとの意見。「県が林発取消しの意志を示せば林野庁は全面的に協力するー」とのことを林野庁にも確認したが、協力するとは言ってないとの回答。以上横井さんの意見。資源エネルギー庁の2023-2-9付け最新の認定失効制度について-資料の確認および手渡し。
ポイント：　軽井沢メガ至近の田代メガ土砂崩落状況はご存じなく、驚いた様子であった。横井さんのＩＤ取消懐疑論要フォロー

□ 2022年1月13日に県生活環境課殿に示した図面および説明。 作成:古村　高



数万年前に多賀山系の火山噴火で形成された
伊豆半島特有の地形



凹凸のある山間地で土砂崩壊X誘発

火山灰がお椀のようになり
その上のスコリヤ層に大量の
雨水がたまり、限度を超えると
崩壊する。今後地球温暖化で大量の雨水を含む
台風、豪雨が多くなり土砂崩壊の可能性も高まっている。
前ページp.1の①と②（右の写真）にスコリヤ層が観測される。

2019年10月の県水道本管崩壊場所での
スコリヤ層（黄色の地層）崩壊状況

台風19号関連 photo情報：

https://photos.app.goo.gl/ooSrSJ4iicVxjcMf7

短縮：https://bit.ly/3rHPPD7

QRA

2．交通基盤部 道路局道路企画課（伊豆湘南道路他）
参加者：局長望月さん（名刺交換のみ）、課長山梨さん、高速道路班班長榊原さん、主査山田さん
打合日時場所：230410,14:00~@本館2F 局長前の会議机
打合内容：
-1.丹那ベルト区域構想の説明。50年前からある13000区画にも上る田園中山間地住宅地域にとっていかに最新の道路計画である伊豆湘南道路の丹那出入り口が重要であるか説明実施。伊豆湘南道路はルート未定であり、丹那出入り口の話しは未定とのことの説明再度あり。
-2.熱函道路新山ＩＣ付近の最高速30ｋｍ制限の要望を伝える。本件は警察での速度規制になるので、低速度区域の計画を立て、町とつめて、警察に提出すべきとのアドバイスあり。
-3.2021年度のＧＳＭ試験運行の説明実施し、丹那盆地周回道路メインの自動運転車走行の要望を伝えたところ、自動運転車のリスクがあり、運行区域が限られていること、安全性の確認が重要とのアドバイスあり。
-3.1 暮らしの応援隊の移動支援の活動説明。安全走行には低速走行重要。
-4.伊豆中央道の無料化延期の話しが紛糾している件。県としては無料化による渋滞の拍車を懸念しているとの説明再度あり。町議会からの国、県への要望書の確認。
ポイント：伊豆湘南道路の丹那出入り口の必要性の議論のつめ。
県の伊豆中央道の無料化延期計画に対する更なる反対論のつめ。
今回議論できなかった、東の道の駅構想の確認。

3. くらし・環境部 環境局 生活環境課
（軽井沢メガソーラー・環境アセス関係）
参加者：課長 大坪さん、環境影響評価班班長 塩澤さん、
主任 石間さん、
打合日時場所：230410、15:00~@西館6F 外部モニタ借用
打合内容：
-1.森林保全課と同様に外部モニタ使用し台風19号被害状況、特に田代メガ至近土砂崩壊の確認。2022年1月に生活環境課に提出した資料（本資料p22－23）の再確認。
-2.林発許可は力があるが、アセスは手続きだけである一との説明再度あり。
-3.FIT認定取り消しとなっても、10円、20円/kwでも事業者がアセス準備書を県に出せば対応せざるを得ない。
-4.清水LNG案件の例もあり、やはり住民の力が重要。
-5.一般論として、ブルーキャピタルがやめるといえば止まる。
ポイント：林発許可取消要請と絡めた、継続したアセス引き延ばし策重要。

4. くらし・環境部 環境局 水資源課
（エメラルド区水問題）

参加者：課長 太田さん、課長代理 紙谷さん、水道環境班
班長 望月さん

打合日時場所：230410、15:45~@西館6F

打合内容：

-1.エメラルド区長から川勝平太県知事宛の、エメラルド区水道問題に関するお願いの文書が4／9にレターパックで出されていることの確認。（本打ち合わせ時点では水資源課では未確認であった。）

-2.伊豆の国市と函南町にまたがる伊豆エメラルドタウンで、市側みどり区・町側エメラルド区および新たな水道源となる小松ヶ原区水源、東部簡易水道の位置関係等の再確認。過去50年にわたり、住民が渇望する町の簡易水道化に関する問題であることの再確認実施。

ポイント：継続して、エメラルドタウン管理組合、エメラルド区住民、町、県で本問題をフォローする。

5. 健康福祉部 地域包括ケア推進室（病院問題）

参加者：主査 矢岸さん　　打合日時場所：230410,16:30~@県医師会館4F

打合内容：　（赤字部は矢岸さんによる修正 0414）

-1.伊豆保健医療センターによる積極的な訪問診療の確認。

-2.県では訪問診療は積極的に対応してきている。別紙文書（在宅医療提供施設整備事業）入手。

http://www2.pref.shizuoka.jp/all/sinsei.nsf/04.html/5B7CC3EA3942E4594925885300029026　から入手可能。

出張診療はやってないが、訪問診療のための医療機器の補助である。ただ19病床以下の小規模診療所向けである。

-3.県は出張診療に関して情報が無かった。県では、山口医院さんがどのようにして出張診療をはじめたのか承知していない。県の方で出張診療についてどういった条件が必要なのか確認をし情報提供する。

-4.地域の要望、伊豆保健医療センターさんの考えが重要。またベリー薬局さんのような医師を助ける人、支える人が重要。看護師がまず看取りに行き（忙しい）医師が翌日に行く形で医師を援助できる。

-5.農村環境改善センターでどうやるか？やり方を工夫する必要がある。

まずは町内で検討いただき、町ではどうにもできない、県の支援が必要と言うことであれば、要望書を出すなどの対応となる。やり方によって、愛知県にある東海北陸厚生局に届出を出す必要がある。

https://kouseikyoku.mhlw.go.jp/tokaihokuriku/index.html

-6.県医師会と県行政は同じ県医師会のビルにいる。町から県、田方医師会から県医師会への要請があれば、すぐに話は出来る。矢岸さんは医師会のビルの中にいる。

ポイント：伊豆保健医療センター、町の健康づくり課、県の地域包括ケア推進室そして住民と話し合いを継続する。